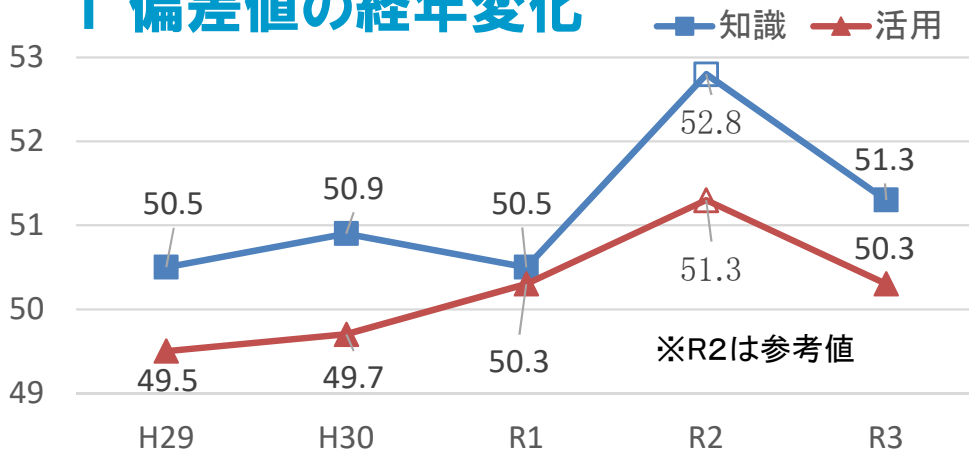


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
世界の地域構成	53.5	51.7	51.7
世界各地の人々の生活と環境	73.9	71.7	65.0
世界の諸地域	53.2	53.7	50.0
古代までの日本	72.1	70.1	65.5
中世の日本	40.1	38.2	38.8
日本の地域構成	58.3	53.2	48.8

○全ての領域において、目標値を上回っている。
▲「世界の諸地域」において、全国正答率を0.5P下回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
社会的事象への関心・意欲・態度	55.1	54.4	50.5
社会的な思考・判断・表現	56.0	55.6	51.9
資料活用の技能	58.3	56.9	53.8
社会的事象についての知識・理解	62.5	60.0	56.4

○全ての観点において、全国正答率及び目標値を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	60.9	59.6	56.5
短答	69.9	62.6	56.3
記述	37.7	38.5	37.5

○全ての解答形式において、目標値を上回っている。
▲「記述」において、全国正答率を0.8P下回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問4(5) 県正答率30.2% 県無解答率20.7%

【ねらい】モノカルチャー経済の国が抱える課題について、資料をもとに考察し、表現することができる。

【つまづきが見られた内容】

アルジェリアやナイジェリア、ベネズエラの輸出品目の割合を示したグラフと原油価格の推移を示したグラフから必要な情報を取り出し、関連付けて、モノカルチャー経済の国が抱える課題(国の収入が安定しないこと)について思考・判断したことを適切に表現すること。

◆ 指導のポイント

○下記①～③のどの段階でつまづいているのか実態把握し、支援・指導していく。

①複数の資料から条件に合致した情報を取り出す段階

②取り出した情報を比較したり、傾向を抽出したりする段階

③比較したり、抽出したりした結果等を関連付けて、条件に沿って考察し、記述する段階

○複数の資料から情報を取り出し、関連付けて、社会の中にある問題を見付けたり、その解決に向けて考えたりする場面を設定する。

○グループ等による学習を通して、自分とは異なる視点から取り出した情報を得たり、自分の考えについて意見をもらったりする場面を設定する。

○自分の考えを記述する時間を保障する。

★ 指導の具体例

複数の資料から読み取った事実をカードに書き、比較したり、傾向を抽出したりした結果等を関連付けて表現する活動(例)

① 複数の資料から条件に合致した情報を取り出す段階

- 表題、調査時期、調査対象、凡例などを確認させる。
- どの言葉や数字に着目すればよいか考えさせる。
- それぞれの資料から分かる事実をカードに書かせる。

A国、B国は原油が輸出品目の80%以上を占めている。【資料Ⅰ】

C国は原油と液化石油ガスで、輸出品目の約60%を占めている。【資料Ⅰ】

原油の価格は高くなったり低くなったりしている。【資料Ⅱ】

A～Cのすべての国の輸出品目に原油がある。【資料Ⅰ】

2000年頃から原油価格は上昇傾向にある。【資料Ⅱ】

原油価格が1年間で約30ドル(1バレル)下落している。【資料Ⅱ】

② 取り出した情報を比較したり、傾向を抽出したりする段階

- 書いたカードについて、適切な観点を与え、比較・分類、関連付け等を行い、整理させる(個人)。
- 事実と事実から言えること、それらを根拠にして考えられることを班で出し合わせる(個人→グループ)。

③ 比較したり、抽出したりした結果等を関連付けて、条件に沿って表現する段階

【【資料Ⅰ】から言えること】
輸出品の中心が原油などの鉱産資源である。

関連付け

【【資料Ⅱ】から言えること】
原油などの鉱産資源は価格が変動しやすい。

[関連付けて考えられること]

鉱産資源の輸出に頼った経済では、国の収入が安定しない。

○どの資料を基に考えたのか記述させることで、根拠をはっきりさせ、資料と資料の関連付けを意識させるようにする。

○「考えられること」を検証するために必要な資料は何かを、個人やグループで考える活動も考えられる。